

令和5年度消費・安全対策交付金（食料安全保障確立対策推進交付金）の成果及び評価報告書

1. 令和5年度消費・安全対策交付金（食料安全保障確立対策推進交付金：ソフト事業）（令和5年度当初予算分）

目的	目標	事業実施主体	目標値	実績	達成度	評価	所要額 実績 (円)	交付金 相当額 (円)	県による評価の概要
I 農畜水産物の 安全性の 向上	農薬の適正使用 等の総合的な推 進	和歌山県	農薬の不適切な販売及 び使用の発生割合 目標値：0%	3.6%	92%	A	489,671	241,000	研修会の開催や、啓発資料の活用等により、農薬の使用者・販売者に対して、適正な取り扱いをするよう指導を行った。 農薬販売にかかわる違反事例は発生しなかったが、農薬の不適切な使用が1件確認された。今後も引き続き農薬販売者や使用者への指導に取り組み、農薬安全使用研修会や巡回指導等啓発の場において農薬の適正使用について重点的に啓発するなど、より徹底した周知を行うことで不適切な販売及び使用の発生率0%を目指す。
	海洋生物毒等の 監視の推進	和歌山県	海洋生物毒のモニタリ ングの総実績数 目標値：117回	128回	109%	A	580,800	142,000	海洋生物毒のモニタリング総実施数の目標117回に対し、漁業・養殖業の実施状況を考慮して128回の調査・分析を行っており、目標回数を達成している。 漁場環境モニタリング体制や、貝毒検出時における出荷自主規制を要請する監視体制を継続することで、毒化した二枚貝の流通が未然に防がれており、水産物の安全性確保に貢献したことから、本事業は適切に実施できた 令和5年度は、県内において貝毒の発生はなかったが、瀬戸内海域では依然として貝毒が発生していることから、今後も二枚貝の安全性確保を図るため、各海域の漁業実態を踏まえた監視調査を継続して実施する必要がある。
II 伝染性 疾病・ 害虫の 発生予 防・まん 延防止	家畜衛生の推進	和歌山県	家畜衛生に係る取組の 充実度 目標値：104.2%	118.3%	113%	A	8,759,664	4,069,000	取組の充実度については、目標値104.2%のところ実績値118.3%となり、達成度113%とすることができた。これは、各農場で問題となっている生産性を低下させる疾病や病原体に対し、実情に応じた指導・検査を行った結果、これらによる被害低減につながったと考えられる。その一方、肉用鶏や採卵鶏の鶏舎からサルモネラが分離されていることから、食品の安全性が担保されているとは言いがたく、より一層、消毒や野生動物侵入防止対策等に取組むよう、継続した指導が必要である。
	養殖衛生管理体制の 整備	和歌山県	養殖衛生管理指導を 実施した経営体数の養 殖等経営体総数に占め る割合 目標値：100%	100%	100%	A	1,246,000	524,000	リモートや対面での会議や研修に出席し、積極的に情報収集を行うとともに、県内養殖衛生対策会議を書面開催し、すべての養殖経営体に魚病発生状況や水産用抗菌剤に関する情報提供を行った。 養殖衛生管理指導については、目標値である53経営体を達成し、養殖現場における衛生管理技術の向上を図った。また、魚病検査や種苗導入前の健康診断等についても147件実施するなど、魚病の発生予防・まん延防止に努めた。 以上のことから、本事業は適正に実施できた 今後も継続して、魚病の発生予防・まん延防止に努めるとともに、安全な養殖生産物の供給を維持するため、巡回指導・水産用医薬品の適正使用指導等に努める。
	病虫害の防除の 推進	和歌山県	従来の防除対策では防 除が困難な作物の防除 体系等における防除に 関する管理手法の現状 値からの向上率 目標値：113%	113%	100%	A	855,800	288,000	①ピーマンうどんこ病に対して防除効果の高い薬剤を複数系統選択することができた。また、研修会を通して生産現場へ周知し、目標を達成することができた。今後は防除暦への反映に向けて取組を進めたい。 ②県内における複合抵抗性ワタアブラムシの発生状況と有効薬剤を明らかにすることができた。成果は広報誌、現地指導を通じて生産現場へ周知することで目標を達成した。 ③ベンゾイミダゾール系薬剤に対する耐性菌の発生が確認されているカンキツ緑かび病菌に対して、代替薬剤として選定した薬剤の防除効果を明らかにし、新たな防除体系を確立することができた。この結果については生産現場への周知を研修会等で行い、目標を達成することができた。今後は技術普及に向けた取組を進めていきたい。 ④県内カンキツ栽培地域におけるカンキツのミカンハダニの薬剤抵抗性の発達を明らかにするとともに、有効な薬剤を選定する事ができ、効果的な防除体系を確立することができた。また、生産現場への周知を研修会等で行い、目標は達成できた。今後はこの防除体系の普及を進めていきたい。 ⑤有効薬剤2剤を明らかにした。開花期に多雨が予想される場合にはこれらを追加散布するよう、農業士の研修会や成果発表会で生産現場へ周知を行った。今後は散布適期・散布回数を明らかにし、より効果の高い防除体系の確立を目指したい。 ⑥DMI剤の散布回数を低減した防除体系でウメすず斑病に対して高い防除効果が得られることを実証できた。チラシの配布や説明により生産現場への周知を行った。今後は防除暦例への反映に向けて取組を進めたい。 ⑦ビワのビワキジラミの防除に適用できる農薬が少ないため、農薬（リーフガード顆粒水和剤）の残留分析に供する果実サンプルを分析機関に送付し、分析結果を農薬メーカーに提供した。目標は達成できた。適用拡大後は本薬剤を組み入れた防除体系の普及に取り組むたい。
総計・総合評価					109%	A	14,725,010	6,607,000	

目的	目標	事業実施主体	目標値	実績	達成度	評価	所要額 実績 (円)	交付金 相当額 (円)	県による評価の概要	
Ⅲ 地域での食育の推進	地域での食育の推進	和歌山県	栄養バランスに配慮した食生活の実践度 目標値：43.9%	84.6%	192%	A	1,802,428	890,005	<p>県版食事バランスガイドを用いた教材作成や講座等により、児童や大学生の若い世代に加えて、指導の立場にある食育関係者も、改めて栄養バランスのとれた食生活の重要性や地場産物の魅力を学ぶことができ、食に対する意識変化がみられた。</p> <p>栄養バランスに配慮した食生活の実践度及び産地や生産者を意識して農林水産物・食品を選ぶ者の割合において、アンケート調査では目標値を大きく上回る結果となったことから、効果的な事業であったと考えられる。今後、意識変容がしっかり行動変容につながるよう、継続的に働きかけを行う。</p>	
			産地や生産者を意識して農林水産物・食品を選ぶ者の割合 目標値：74.1%	94.4%	127%	A				
		わかやま市民生活協同組合	食文化の継承度 目標値：60.0%	82.8%	138%	A	120,361	55,650		<p>食文化の継承のための講演会では、おせち料理の食材の謂れ、お屠蘇や祝い箸などの文化や作法について学び、参加した82.8%の方が、今後は食文化の継承を行っていくと回答した。</p> <p>また、環境に配慮した農林水産物・食品に関する学習会においては、91.0%の方が「環境に配慮した有機農業について見識を深めることができた」、81.8%の方が「今後、環境に配慮した農林水産物・食品を選ぶと思う」と回答している。</p> <p>以上のことから、意識変容のきっかけづくりとなる取組として効果があったと考えられる。</p>
			環境に配慮した農林水産物・食品を選ぶ者の割合 目標値：72.2%	81.8%	113%	A				
			産地や生産者を意識して農林水産物・食品を選ぶ者の割合 目標値：74.1%	85.2%	114%	A				
総計・総合評価				167.4%	A	1,922,789	945,655			

目的	目標	事業実施主体	目標値	実績	達成度	評価	所要額 実績 (円)	交付金 相当額 (円)	県による評価の概要
特別交付型交付金									
Ⅱ 伝染性 疾病・ 害虫の 発生 予防・ まん延 防止	家畜衛生の推進	和歌山県	豚熱、アフリカ豚熱のまん延防止	豚熱、アフリカ豚熱のまん延防止	達成	適正	2,038,985	1,968,000	<p>県内全域から効率的に検体を収集し、野生いのししの豚熱・アフリカ豚熱の浸潤状況を監視・把握するため、野生いのししの捕獲・検体採取・送付までの取組を推進した。令和5年度中に494頭（前年比約1.6倍）を検査し、うち1頭の豚熱陽性を確認した。また、養豚場への豚熱・アフリカ豚熱のまん延防止のための指導に活用した。</p>
		和歌山県	クビアカツヤカミキリの発生抑制	クビアカツヤカミキリの発生抑制	達成	適正	1,152,092	576,046	<p>本事業の実施により、被害発生地域において春と秋に悉皆調査を実施し、新たな被害園に対する防除指導を行うことが出来た。指導により多くの被害園地では掘り取りやネットを巻く等の応急的な防除を行った後、被害樹を伐採することによりさらなる被害拡大を防ぐことが出来た。</p> <p>また県内のモモ、スモモ、ウメ産地の生産者等に対して当害虫の防除対策の重要性について広く啓発、指導を行ったことで、生産者自身の意識醸成や行動変容につなげることが出来ただけでなく、対策の重要性の周知によりその後の伐採等にスムーズにつなげることができた。</p> <p>引き続き当害虫の被害拡大を抑制するため、悉皆調査の実施による被害の拡大抑制と生産者に対する防除対策の啓発、指導を行う。</p>
	重要病害虫の特別防除等	JA紀の里生産販売委員会クビアカツヤカミキリ対策協議会	クビアカツヤカミキリの発生抑制	クビアカツヤカミキリの発生抑制	達成	適正	5,176,240	2,352,607	<p>飛翔性の高いクビアカツヤカミキリの防除では、地域での一斉防除により、成虫密度を下げるのが重要である。本事業では、協議会構成員の生産者に対して防除対策の啓発を行ったうえで、地域一斉に薬剤散布を行ってため、防除を必要な時期に効果的に行うことができていると思われる。引き続き当害虫の被害拡大を防止するため、生産者への啓発および薬剤散布を次年度以降も継続して実施していただきたい。</p>
		クビアカツヤカミキリ防除対策協議会	クビアカツヤカミキリの発生抑制	クビアカツヤカミキリの発生抑制	達成	適正	2,448,320	1,224,160	<p>飛翔性の高いクビアカツヤカミキリの防除では、地域での一斉防除により、成虫密度を下げるのが重要である。本事業では、協議会構成員の生産者に対して防除対策の啓発を行ったうえで、地域一斉に薬剤散布を行ってため、防除を必要な時期に効果的に行うことができていると思われる。引き続き当害虫の被害拡大を防止するため、生産者への啓発および薬剤散布を次年度以降も継続して実施していただきたい。</p>
		総計・総合評価				達成	適正	10,815,637	6,120,813

2. 令和5年度消費・安全対策交付金（食料安全保障確立対策推進交付金：ソフト事業）（令和4年度補正予算繰越分）

目的	目標	事業実施主体	目標値	実績	達成度	評価	所要額 実績 (円)	交付金 相当額 (円)	県による評価の概要
Ⅲ 地域での食育の推進	地域での食育の推進	NPO法人子どもの生活支援ネットワークこ・はうす	地域等で共食したいと思う人が共食する割合 目標値：55.9%	91.6%	163%	A	2,320,723	2,199,527	こども食堂や調理実習への参加者が、食事の大切さ、共食の大切さを学ぶことができ、さらにそれらを発信することで、周囲に取り組み状況が伝わっている。また、レシピカードの発行で、事業終了してもなお食育が続いたり、農林漁業体験実績値をみても、目標達成に十分効果があったと考えられる。
			栄養バランスに配慮した食生活の実践度 目標値：43.9%	23.8%	54%	C			
			産地や生産者を意識して農林水産物・食品を選ぶ者の割合 目標値：74.1%	81.0%	109%	A			
			当会利用登録者における農林漁業体験者数 目標値：20名	37名	185%	A			
		Team MAK-e Spot(ほんまち子ども食堂)	地域等で共食したいと思う人が共食する割合 目標値：55.9%	100.0%	178%	A	1,341,355	1,282,136	こども食堂の情報発信を通じて、孤食防止や、見守り強化の意識へとつながり、地区の課題の解消につながった。また、関係機関との連携により、学習支援や体験を行い、新たなコミュニティの再構築へとつながり、目標値を超える結果となった。
			栄養バランスに配慮した食生活の実践度 目標値：43.9%	87.0%	198%	A			
			ほんまち子ども食堂における農林漁業体験者数 目標値：20人	40人	200%	A			
			産地や生産者を意識して農林水産物・食品を選ぶ者の割合 目標値：74.1%	77.7%	104%	A			
		Kitchen夢小屋	地域等で共食したいと思う人が共食する割合 目標値：55.9%	100.0%	178%	A	692,327	646,051	農業体験への参加者が多く、農業体験を通じて普段できない体験をしたり、自分たちで植えた作物を美味しくいただけたと感じることで、食育につなげることができたと考えられる。 また、林業体験を通じて、間伐を行うことで、山への効果を学ぶことができたなど、日常では経験できないことを体験できたことで、農林漁業に興味を持ってもらうなど、今回の事業は十分効果があったと考えられる。
			農林漁業体験を経験した人の割合 目標値：40人	60人	150%	A			
			産地や生産者を意識して農林水産物・食品を選ぶ者の割合 目標値：74.1%	59.0%	79%	C			
		楽しいは美味しい友の会	地域等で共食したいと思う人が共食する割合 目標値：55.9%	81.7%	146%	A	1,205,306	924,906	共食の場における食育活動を通じて、地域の課題に取り組み、共食したいと思える人の実績値が目標値を超えている。また、この活動を通して、地元産の食材を選ぶ割合も増え、この活動は効果的であったと考える。
産地や生産者を意識して農林水産物・食品を選ぶ者の割合 目標値：74.1%	75.4%		101%	A					

	一般社団法人は しっ子えがおサ ポート	地域等で共食したいと 思う人が共食する割合 目標値：55.9%	98.6%	176%	A	1,090,360	1,090,360	どの項目においても、全て目標を達成することができ、アンケートでも、共食の大切さ、地元の食材を使用し調理体験をしたこと、農業体験をしたことで、参加者の共食等に対する意識の向上につながったことがわかる。このことから、今回の事業は地域での食育の推進に十分成果があったと考えられる。
		栄養バランスに配慮し た食生活の実践度 目標値：43.9%	69.3%	157%	A			
		農林漁業体験を経験し た者の増加の割合 目標値：30人	30人	100%	A			
		産地や生産者を意識し て農林水産物・食品を 選ぶ者の割合 目標値：74.1%	82.5%	111%	A			
総計・総合評価			129.8%	A	6,650,071	6,142,980		

目的	目標	事業実施主体	目標値	実績	達成度	評価	所要額 実績 (円)	交付金 相当額 (円)	県による評価の概要
特別交付型交付金									
Ⅱ 伝染性 疾病・ 病害虫 の発生 予防・ まん延 防止	発生予察及び侵入 調査の強化に 資する機器の整 備	和歌山県	カメムシ類、ウンカ 類、ヤガ類及び灰色か び病のまん延防止	カメムシ 類、ウン カ類、ヤ ガ類及び 灰色かび 病のまん 延防止	達成	適正	11,233,357	11,233,357	侵入調査事業の開始や指定有害動植物の見直しによる発生予察事業の拡充により、防除所の業務は増加しており、人員に限られる中、調査業務の効率化は喫緊の課題となっている。本事業において導入した機器は、いずれも調査にかかる労力軽減や時間短縮を期待して導入・実証を行った。 機器及び対象病害虫ごとに実証した結果、スマート害虫モニタリングシステムについては、いずれの害虫においてもAI画像認識能力の向上など改良が必要であったものの、改良により効率化につながる可能性はあると思われる。その他の機器については既存の手法と比べて、効率化に繋がる一定の効果を確認できた。実際の予察手法等として使うには過去データとの比較が重要なため、実用化に向けて次年度以降もデータの蓄積を行っていく必要がある。
総計・総合評価					達成	適正	11,233,357	11,233,357	

3. 令和5年度消費・安全対策交付金（食料安全保障確立対策推進交付金：ソフト事業）（令和5年度補正予算分）

目的	目標	事業実施主体	目標値	実績	達成度	評価	所要額 実績 (円)	交付金 相当額 (円)	県による評価の概要
特別交付型交付金									
Ⅱ 伝染性 疾病・ 病害虫 の発生 予防・ まん延 防止	重要病害虫の特 別防除等	和歌山県	火傷病のまん延防止	火傷病の まん延防 止	達成	適正	451,738	451,738	本県内においても令和5年度にナシで中国産花粉を使用した園地があり、火傷病の発生リスクが高い状態にあった。本事業の実施により銅水和剤、抗生物質剤と複数の薬剤を備蓄したため、作物の生育ステージ合わせて必要な薬剤が選択でき、万が一火傷病が発生した場合は、迅速に防除できる状態になった。 なお、令和6年3月末時点では本県において火傷病の発生は確認されていないものの、今後も火傷病の侵入状況の把握に努め、発生した場合に迅速に対応する必要がある。
総計・総合評価					達成	適正	451,738	451,738	